

けやき



No. 628
2023. 9. 19

京大職組
文学部支部

新支部委員あいさつ 伊原木大祐

このたび文学部支部の支部委員となりました伊原木と申します。コロナ禍による自粛生活が本格的に始まるうとしていた二〇二〇年の春に、宗教学専修の教員として赴任しました。

大学や学部を取り巻く環境について、ほとんど何も知らないままま過去ごしてきましたが、もう少し内情を理解したいと思うようになり、同じ思想文化学（哲学基礎文化学）系の児玉聡先生が支部長に就任されたことを機に、組合に加入させていただきました。毎月の教授会では分からなかったことについても定期的に情報をいただけるようになり、とてもありがたいと思っています。

本学に赴任する前は、九州地方の公立大学に

十年ほど勤務しており、当時は同じ部局に所属していた教員に誘われ、形式的ながら教職員組合に加入しておりました。年々教職員の加入率が低下しており、年配のベテランたちによってかろうじて組織が支えられているといったシビアな状況のなかで、私自身、あまり熱心に活動をしていただけではありませんが、いくたびか執行委員の一人として団体交渉や学長懇談などに参加する機会に恵まれました。

組合から執行部に提示する毎年の賃上げ要求などは、けんもほろろに突き返されることばかりで、あまり大きな成果が得られた記憶はありません。しかし、細かな制度変更に関わることは教職員の意向や要望が反映されることがあり、その点では組合の役割も大きかったように思います。何より、比較的小規模な大学でしたので、組合への参加を通して学部の垣根を超えた交流がしやすかったことは、今でも良い思い出となっています。

約十五年ぶりに文学研究科に戻ってみて驚いたのは、学内の雰囲気がかつての時代とはあまりに違って、環境自体が大きく変わってしまったせいなのかもしれませんが、自分も若い頃に憧憬の念をもって描いていた京都大学像は、無数にあったタテカンとともにいつのまにか撤去されてしま

っていたようで、本当に寂しいかぎりです。

大学に限らず日本全体が政治的にも経済的にも多くの課題を積み残しながら進んでいくのを見て無念な思いもあります。このような時代にこそ組合の意義があるのだろうと期待しています。

昨今の物価高で生活も日々厳しくなっているなか、時間雇用職員の方々の待遇改善は喫緊の課題であると考えます。今後とも組合員の皆さまからいろいろとご教示いただけると幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

研究科長・事務長への

ご挨拶

今年度、支部委員が交代したことをうけて、8月9日の午後に木津研究科長、上野山事務長と懇談会を行いました。支部委員会側からは、当日所用のため出席できなかった杉江・米家の2名を除く支部委員4名が参加しました。

まず、改めて支部委員を欠席者もふくめて紹介するとともに、今年度からの支部の規約改正や運営体制の変更について説明しました。

次に、これまでの組合との信頼関係に基づき、申し入れに応じて折衝・交渉の場を設けていただけでなく、組合との慣行事項等に変更がある場合には事前に連絡していただくこと、そして支部委員会や支部総会などの組合活動での会議室の利用をお認めいただくことについて確認しました。

次に、組合の会議などで休養室を利用することについてお願いを行いました。休養室については、昼休みに支部委員会などで利用することの許可を二〇一六年にいただけていましたが、新型コロナウイルスへの対策の一部として利用が停止されていたものです。これについては、これから休養室のある文系学部校舎の改修が行われ、改修後の休養室の場所は変わることになるが、ど

こかには休養室を確保することはまちがいない、ということ、その場所に利便性があるのであれば使っていたかどうかは問題ない、という回答をいただきました。

また、支援職員制度、時間雇用職員の待遇、文系共通事務との雇用条件の関係などについては今後具体的な要求事項がまとまった時点であらためて懇談を申し入れる旨を伝えました。

これについて、事務長からは、支援職員制度について情報共有を行ったこと、他部局の部局推薦型支援職員の運用についての情報収集を行っていることについて説明がありました。

2023年度支部委員会

伊勢田哲治 伊原木大祐*

児玉聡（支部長） 米家泰作

杉江あい* 谷川穰*

* 支部規約の改正にもとづき3名の委員が加わりました。新委員の任期は2年です。